

名前：

インターネット性質の是はユーガーの情報
 選択の自発性及びその伝達速度にあり、非は
 信ぴょう性が疑わしいことにあると考えられ
 る。新聞や雑誌に対して持ちうる我々の自発
 性は媒体選択にしかなく、与えられる情報は
 常に一方的だ。これに対しインターネットは
 自らか知りたい件案について検索可能であり
 、またそれを一瞬にして手にとる。一方で
 ネット上に氾濫する情報は誰もが発信可能で
 ある故に意図如何を問わずデマが混入されや
 すい。それ故にポータルサイト等ある程度文
 責のある場所では新聞記事、雑誌記事の孫引
 きをしているのが現状であり、これだけで情
 報源としての新聞・雑誌の存在意義は既に確
 められたものと思う。風化しやすいネットの
 情報は風に舞う砂塵のようなものであり、風
 を生み出す情報の「源」たり得ないというの
 が僕の意見だ。

またネットのもう一つの性質は言うまでも
 なく匿名による公論空間の形成の場というも

のだが、これは是とも非とも存り得る諸刃の
 剣と言えよう。匿名性は自由な立場からの意
 見を可能にするが、時に抑止不可能な暴力（
 それは言葉だけに留まらないう）を引き起こす
 。その標的は時に情報親たる新聞・雑誌とな
 る。ある程度の権威を保証されてはいるもの
 の両メディアもまた誤りを多く含むからだ。
 だがこの構造は親に刃向かう子の域を脱して
 いない。ネットメディアは決して独立した力
 たり得ないのだ。ここには僅は「第4の権力」
 としてのネットの未発達さを見出す。勿論批
 判の矢面に立った新聞・雑誌もその根本的変
 容を迫らねていいる。これから両メディアはよ
 りインタラクティブに読者の意見を取り入れ
 ざるを得まい。それでもなお、やはり新聞・
 雑誌の重要性は風化するとはないだろう。